

# べつかい 議会だより

第92号  
2020年2月



クリスマス会のご馳走を前に笑顔がこぼれる

## 特集 一般質問に10人が登壇 …… 2

委員会調査と連動し追跡する一般質問へ

- 暮らしやすいまち、住みやすいまちづくりの推進に向けて …… 3
- MR I の導入は必要なのか議論を深める …… 4
- 酪農の担い手・まちなか賑わいについて関係団体と意見交換 …… 5
- 一般質問(田村、横田、木嶋、宮越、小椋、中村、今西、瀧川、外山、戸田の10議員) …… 6
- 第4回定例会・決算審査特別委員会報告 …… 16
- 研修報告、議会のうごき …… 18

シリーズ 町民に聞きました 「別海高校寄宿舎の生活」 …… 20



北海道別海町議会

# 一般質問に10人が登壇

## 委員会調査と連動し追跡する一般質問へ

町議会となって約半世紀。令和元年第4回定例会は、過去最多の10人が一般質問に登壇し、3日間にわたり政策論議を行いました。委員会調査と連動させ、16人の議員全員で一般質問を磨き上げました。

### 委員会調査計画を策定し調査精度を高める

一般質問の登壇者の不足を議会モニターから指摘されていた別海町議会ですが、改選後に4年間の調査計画を定め、特に委員任期の2年間で重点的に調査する政策課題を絞り込み、まずは、委員会調査の強化に取り組みました。

人口減少対策などの重点調査事項は、先進地視察や「地域めぐり懇談会」などで町民の声を聞くなど、調査の補強に努めました。

### 本会議で堂々と政策論議し「見える化」を

昨年の8月と11月には、講師を招いて一般質問研修会を行いました。

### 登壇議員の質問を磨き上げ質問者の力に

研修を通じて、「委員会調査は、あくまでも議案審査や議員が下調べを行う本会議の附属機関」「政策論議できる権利は一般質問の場でしか与えられていない」「理事者の公式見解は、本会議で引き出し、町民の見えるようにすべきもの」という原点に立ち返りました。

別海町議会は、一般質問を

全議員で磨き上げる「一般質問検討会議」を9月および12月定例会前に試みました。全国的にもまれな取り組みです。

12月定例会では10人が登壇していますが、実際には16人の議員全員が質問の構築や磨き上げにかかわっています。

研修会において、講師から

「一般質問をしている議員をひとりぼっちにさせてはいけない」という助言を受け、始まった試みです。

一般質問に登壇すると、目の前には町長ほか多数の職員がおり、緊張とともに孤独感が避けられないわけですが、同僚の議員から応援されることで質問者の力になります。

### 委員会調査と一般質問を連動し政策論議

さらに新たな取り組みとして、冒頭で述べた委員会が重点調査している案件について、委員会の委員の総意で、理事者に考え方をただし、政策提言を述べる一般質問を試みしました。3人の議員が「別海病院のMRの導入」「幼児教育・保育の無償化に伴う給食費の



一般質問検討会議を試験的に実施

あり方」「ふるさと交流館および酪農研修牧場」について質問しました。

こうした取り組みの成果は、次ページ以降の各常任委員会の活動報告や一般質問のページでご確認ください。

当議会の新たな取り組みに対して、町側から真摯にわかりやすい答弁があり、ときに熱い論戦となりました。

今後も質問の「質」の向上に努め、熱い政策論議を行います。議場で町民の皆さんの傍聴をお待ちしています。

# 総務文教常任委員会の活動報告

担当所管 総務部・教育委員会など 委員長 松壽 孝雄 副委員長 外山 浩司 委員 戸田 憲悦・中村 忠士・田村 秀男

## 暮らしやすいまち、住みやすいまちづくりの推進に向けて

第2期別海町まち・ひと・しごと創生総合戦略の内容について意見交換を行いました。

当町の人口は、国立社会保険・人口問題研究所の調べによると、2060年には7千人台までに減少の予想です。これら人口減少問題を発端とする諸問題への対応を主な

目的として、町では「第2期別海町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定に取り組んできました。この素案概要が示され、調査を行いました。

人口問題での町の考えでは、比較的出生率が高い当町では人口減少は社会減が主な原因と捉えています。生まれる赤ちゃんは、10年前が160人前後だったのが、この2〜3年は、110人前後と減っています。

それを受けて「子どもを産み、子育てしやすい環境整備が重要では」などの意見交換を行ってきました。

また、当委員会だけではなく議会としての29件の意見を提出し町側の考えをただしました。その後、町は戦略の策定に

向けて推進委員会、戦略会議を行い、町民の皆さんへのパブリックコメントを実施しています。

### 小中学校児童生徒の学力状況について

当町の小学6年生と中学3年生の学力は、全道・全国平均を上回る教科、同程度の教科、やや下回る教科とありますが、平均して高い値でゆくりと伸びている状況です。同一集団の経年変化でも（小学6年生が中学3年生になった時の結果）向上しています。各学校の学力向上への取り組みが成果を上げています。昨年のこの結果では、根室管内で全科目小中学校とも、最も高い状況となっています。

また、読書と新聞を取り入れた学力向上にも力を入れています。「読書が好きだ」、「新聞を読む」などのアンケートの結果がいずれも全国平均を大きく上回っています。

今後「コミュニティ・スクール、生きぬく力アッププロジェクト、保幼小中連携事業」に期待します。

### 別海高等学校教育支援事業について

2年目を迎えた寄宿施設に入居中の高校生とその保護者に実施したアンケートの結果が報告されました。

部屋・食事・管理人などについておおむね満足の結果でした。

通学面では、夏は自転車で通学するが、冬はつらいという意見もありました。

寄宿舎には、19人が入居でき現在12人の生徒が入居しています。空いている7室分を町で補助をしており、3年目に満室になることが望まれます。普通科3学級維持のために町外からの生徒の募集の支援策の一つの寄宿舎を含め、今後も別海高等学校支援の調査を行います。



給食センター完成 4月から子どもたちへ美味しい給食が提供されます

# 福祉医療常任委員会の活動報告

担当所管 福祉部・別海病院など 委員長 木嶋 悦寛 副委員長 小椋 哲也 委員 佐藤 初雄・松原 政勝・横田 保江

## MRIの導入は 必要なのか議論を深める

予算編成に向けて準備が着々と進むMRI。導入の可否について類似事例の視察調査を含め入念な議論を進めています。

10月9日の委員会で、建築費の内訳について口頭で説明がありました。

「近年の建設費例は平方メートルあたり50万円程度であり、厚労省のガイドラインではもっと

抑えるようにとの指摘あり」と

の外部資料もあり、MRI本体の価格と増築費があまりにも高額であると判断しました。

委員会ではほかの病院の事例を調査するため、10月26日に芽室町を訪れました。

そこで、公立芽室病院を考えるセミナーの講師として来道されていた、城西大学経営学部教授の伊関友伸氏、NPO法人病院経営支援機構理事長の合谷貴史氏にお話しを伺いました。

当初、MRIの整備と運用に高額な費用がかかることが予想されるため、MRIの導入に懐疑的な考えも委員は持っていました。

別海病院の規模で必要な機能としては、高性能なCTで

十分との考え方もあります。

しかし、電子カルテやMRI、高性能CTが当たり前の中で経験を積んできた医師にとつて、MRIの有無が勤務する際の大きな判断材料となっている実情があるようです。

町民にとつても、MRIは隣町の中標津病院にあるとはいえ、ストレスなく検査を実施できる設備の利便性は大きく改めて感じました。

また、増築費用やMRI本体の導入費用についても価格を抑える他の病院の事例なども伺うことができ、検討すべき内容は多いながらも導入については前向きに考えるべきと議論しました。

12月の定例会の中で木嶋委員長がMRIの導入について一般質問した結果、町側の方針と現在の費用積算の詳細が明らかとなりました。(8ページ参照)

今後は、これらの材料を基により精度の高い議論を委員会で行っていきます。

## 町民に寄り添った新たな子育て世代への支援は

本年10月1日から実施された幼保無償化に伴って給食費が実費負担となり、多子世帯にとっては負担の増える制度となっていました。

給食費に対する国の方針が変わったことと、これまでの町の独自施策との制度の谷間による状況でもあります。

また、国からの財源などの詳細が出ていないため、今後の町の対策については議論が進まない状況でした。

しかし、地域めぐり懇談会や議会だよりの町民へのインタビューでも関心が高かったため、一般質問で小椋副委員長が質問し、今後の町の方向性について問いました。(10ページ参照)



芽室町への視察調査の様相

# 産業建設常任委員会の活動報告

担当所管 産業振興部・建設水道部など 委員長 今西 和雄 副委員長 大内 省吾 委員 瀧川 榮子・小林 敏之・宮越 正人



課題を共有しJA道東あさひと本気で意見を交わす

## 酪農の担い手・まちなか賑わい について関係団体と意見交換

商工会総務委員会およびJA道東あさひとの意見交換を昨年10月に行ったほか、酪農工場・バイオガス施設の現地調査を行いました。

### 別海町酪農の政策課題の 解決に向け意見交換

当町の酪農を取り巻く政策課題の解決を目指し、調査を補強するためJA道東あさひととの意見交換を行いました。担い手対策については、特

に、人工受精師・ヘルパーなど、現場と密にかかわる職員の確保は差し迫った厳しい状況にあるとのことでした。

また、酪農研修牧場のあり方については、町と担当者レベルでの話し合いを進めており、町と課題を共有し、研修生の確保はもちろん、今後の経営の方向の協議など、密に連携を図っていくとの説明がありました。

委員からは、町および農協のリーダーが、これまでも増して頻繁に話し合いを持つべきとの意見も出されました。

本件については、委員の総意で、その後の12月定例会において町長に対して考え方をただす一般質問を行いました。(12ページ参照)

### 物産拠点の構想について 再び意見交換

昨年1月に引き続き、まちなかの物産拠点構想について商工会総務委員会との意見交換を行いました。

議会としても美瑛町の道の駅の調査を行っています。

今後も商工会と行政との協議を注視し、継続調査を行っていきます。

### 酪農工場の政策課題解決 に向け現地調査

別海町酪農工場は、平成14年から町民の健康増進と別海ブランド向上を図る拠点として生産を開始しました。

加工品の7割が手作業であるとはいえ、施設・機器類の老朽化が進んでいます。

生産者の心を伝えること、町の広告塔となり雇用の創出を図ることなど、製造者の使命を果たすとの説明がありました。

酪農工場の課題の一つは、原料を提供している研修牧場とのかわりです。

今後も継続して事務調査を進めます。

### バイオガス2施設の稼働 状況と課題を調査

中西別の資源循環センターは、現在施設周辺の9戸が、スラリー・堆肥の原料を搬入し、余すことなく製品を利用しています。

施設・機器類は老朽し、特に稼働していない発電機の修復には莫大な費用がかかるとの説明がありました。

別海バイオガス発電機運営施設の現地調査も行いました。

町からは、同社の経営改善計画に基づいた事業展開を見守っていくとの説明がありました。したが、経営に関する報道もされており、町民の不安を解消するため、委員会としては、今後も徹底的に経営改善状況を調査します。



# 議員10人による一般質問

## 質問 目指す郷土愛教育と 未来を担う人材育成は



田村秀男議員

**質問** 未来に実を結ぶ郷土愛教育は。

**答弁** 小学校では、1・2年生の生活科、3・4年生の社会科の総合的な学習の時間で、小中学校が連携し、系統的な学習を進めていく。社会科の副読本は、現在の町の状況と合わない部分があるので、令和3年度当初から新たな副読本の活用を目指している。

**質問** 老朽化した郷土資料館の整備は。

**答弁** 今年度は、教育委員

### 回答の要約

ふるさとを支える教育を目指し、「生き抜くカアッププロジェクト」と「別海型のコミュニティ・スクール」を推進する。

会内部に検討委員会を設置し、整備方針などの素案づくりを行い、現状に即した新郷土資料館の整備の検討を進めていく。



郷土学習に利用されている「西別街道」

**質問** 別海町歴史文化遺産に「別海町の未来を創造していく資産」を加えては。

**答弁** 厳格な認定基準は設けていないが、地域の思いを重視して教育長が認定する。

また、教育委員会の調査によって歴史文化遺産に認定すべきと判断した件については、所有者などの同意を得た上で認定する。

### ふるさとを愛する活動者へのサポートを

**質問** 郷土芸能保存会や郷土の歴史・文化・自然などを残す活動者へのサポートは。

**答弁** 文化連盟を中心とした各関係団体と協議しながら刊行物の作成を検討したい。歴史文化自然にかかる刊行物の作成も、積極的に調査・研究活動を充実させていく。

**質問** 別海町のお宝と知名



第60回別海町芸術文化祭「郷土芸能の集い」

度をアップさせた方々の情報発信は。

**答弁** 町全体において、情報発信の方法はまだまだまだたくさんあり、もっと広く発信すべき課題を持っている。多様な情報手段を使って、町を宣伝していきたい。



質問を終えて

議会サポーターによる議員研修の成果を発揮できるよう努力しました。



詳細はこちらのQRコードから

## 議員10人による一般質問

### 質問

# 幼小中一貫教育の

## 協議・検討を



横田保江議員

**質問** 学校統合などによる適正規模の適否を検討する必要がある、小規模校のデメリットの解消や緩和策を積極的に検討・実施する必要があると思うが。

**回答の要約**  
各学校区で取り組むコミュニティ・スクールを通じて地域、保護者の意見を聞く考えである。

**答弁** 適正配置計画に基づく検討を進め、各学校区で取り組むコミュニティ・スクールの中で議論を深め、地域、保護者の意見を聞き小中連携の中で当町にふさわしい教育行政の構築を進める。

**質問** 幼小中一貫教育を議論する時期に来ていると思うが。

**答弁** 保幼小中一貫教育を取り入れている所は、全国的にも少なく、現在学校区で取り組んでいるコミュニティ・スクールを通じて、地域、保護者の意見を聞き、当町にふ

さわしい教育行政を推進していく考えだ。

**質問** 少子化が教育に及ぼす影響への対応として、「社会全体で子どもを育てていく」という視点を打ち出す事が必要だと思うが。

**答弁** 「社会全体で子どもを育てていくこと」を大切に、各地区の特色ある取り組みを生かし、別海型コミュニティ・スクールを推進していく。

**質問** 当町における少人数教育のメリットを最大化させる方策、またデメリットを最小化させる方策について分析を行ったか。

**答弁** 少人数のメリット、デメリットは、地域ごとに画一的でないと考えている。各地区の学校運営協議会の中で分析しており、教育委員会としてサポートしてい

きたい。



中学校「全校合唱」 子どもの成長を見る会

**質問** 中西別をモデルとして、幼小接続問題の解決策も含めた幼小中一貫教育を地域と協議する考えはあるか。

**答弁** 幼小接続については、幼小中の12年間の中で、地域の自然や産業などを系統的に学ぶ「野付学」を実施している野付学校区をモデルとして事業を推進している。

ホッと一息。早くこの場に慣れたいっ。一步前へ飛び出す勇氣！



# 議員10人による一般質問

**質問** MRI導入の増築費用は平方メートルあたり140万円を超えるあまりにも高額だ



木嶋悦寛議員

**回答の要約**

建設費用は、増築・既設改修・敷地改修工事からなり、概算で約2億6千万円だ。

診察、治療には、MRI検査が必要な場合が多く、よりよい病院とするためにはMRIを導入すべきではとの意見があった。

**質問** 町民の負担軽減も大切な考えだが、多角的に導入の是非を考えているか。

**答弁** 医師の考え方、病院内での検討、財政的な見地、政策的見地、地域医療構想の中で立ち位置などを考え議論する中で、財政面も含めMRI導入について総合的に判断した。

**質問** 年間の維持経費は。

**答弁** 年間約400件で760万円の検査収入を見込み、保守料約1200万円、電気代を約100万円と試算し、合計で年間1300万円を見込んでいます。

**答弁** 増築部分は廊下、待合室、前室、MRI検査室、MRI操作室、CPU室、サーバー室からなり、延床面積は、約180平方メートルを予定する。

高額となる理由は、目的別に工事費を平方メートルの額で算出すると、増築が約60万円、MRI設置の追加工事52万円（うち電磁シールドに要する費用が27万円）、既設の改修が21万円、防音仕様で5万円、平屋建など割増し工事費として6万円、敷地改修が2万円となり高額となっている。

**質問** MRI導入を本来は第7次総合計画に主要事業として位置づけ、町民の目に見える形でわかりやすく計画の情報提供すべきだった。福祉医療常任委員会で調査をしてきたが、あまりに情報不足である。

一般会計からの繰り入れを抑えながら、サービスを最大化して病院経営を改善するだけの導入効果を狙う計画は欠かさない。

MRIの導入計画に至る経過は。

**答弁** 当町は酪農、水産といった一次産業を基盤として

おり、それに起因する整形外科領域の患者様が多く見られる。リハビリも他院へ通院する実態から、町民の負担軽減と患者数の増加を図ることができたらと考える。

町民の負担軽減と患者数の増加を図るとの思いから、平成28年1月から整形外科の出張医師による定期的な外来診療および手術を実施することとなり、現在4人の出張医師により診察、手術を行っている。

整形外科を開設できるなら、外科の先生方が手術後のフォローをしっかりやる理解もあつたので、整形外科の開設にこぎつけた。

**質問** 建設費があまりに高額だ。その理由は。



夜間外来駐車場側に増築してMRI検査室を確保する

質問を終えて

初の委員会総意の質問。議会活性化の成果を実感できたが緊張した～





詳細はこちらのQRコードから

## 議員10人による一般質問

### 質問 漁業者の不安を払拭できる 中・長期的な振興策が必要ではないか



宮越正人議員

#### 質問

当町水産業の主力である秋サケ漁は、今期も不漁となった。また、一方のホタテ漁も、生育状況の変化などで不安定な要素も多くあり、漁業関係者は将来に不安を抱えている。

現状では、子や孫の代に、家業を継承させることに躊躇する漁業者も多く、町としても永く希望の持てる「中・長期的な漁業振興策」の構築が必要と考えるがどうか。

#### 答弁

議員から、6月議会で質問があった北方基金の活用方法などについて、関係漁協と協議を重ね、新たな事業

#### 回答の要約

漁業を取り巻く環境は厳しい状況にあると認識している。補助事業などの活用を含め、つくり育てる漁業、資源管理型漁業のさらなる推進を図りたい。

内容で令和2年度の申請をしたが、国からは「新規の事業効果が生じるものではない」と、採択されていない。しかし、3年度以降は、事業内容の一部改定も検討されており、漁業者および管内市町一体となって地域の水産業に資する要請活動を続けたい。中・長期の漁業振興策については、第7次総合計画の目標どおり、引き続き、つくり育てる漁業の推進、資源管理型漁業の徹底、漁場環境の保全を重要課題として、将来にわたり安心の操業環境と、希望の持てる産業となるよう、増養殖事業の公的支援など、関係者の意

見を聴取しながら、国や北海道にも要請活動を続ける。

### 幼・小・中の感染症 予防対策は…

#### 質問

本年5月に、町民体育館を会場に開催された「管内中学校バスケットボール大会」において、1市4町8校の生徒・職員53人が下痢やおう吐の症状を訴えた。そのうち4人からノロウイルスが検出された集団感染は、想定内の範囲を超えた衝撃的な内容となった。本件事案発生後の、教育委員会の施した対応策は、

また、今年も猛威を振るう予想のインフルエンザの予防接種は、幼・小・中での程度進んでいるか、医師と看護師を各校へ派遣する方法で対応できないか。

#### 答弁

本件事案発生後は、速やかに福祉部、中標津保健所など関係機関と連携して、町内幼・保・小・中・高の全て

に、ノロウイルスの感染予防対策リーフレットを配布するなど、注意喚起を行った。

また、各家庭には、子どもの経過観察や手洗い・うがいの励行など、各校を通じて文書の通知をするなど指導した。

インフルエンザの予防接種状況は、全体を確認しているが、町の予防助成事業を継続して、早期にその内容を各戸に周知する。医師・看護師の学校派遣は、広範囲に学校が点在する当町には難しい。



将来にわたる安定魚種とするために！

質問を  
終えて

当町のさらなる発展のためには、酪農と水産の恒久的な発展が必要です。



# 議員10人による一般質問

## 質問 幼保無償化の新制度がはじまり 今後の子育て支援をどう考えるか



小椋哲也議員

### 回答の要約

国の制度を準拠しつつも、子育て世代に対しての支援を重要課題と位置づけ施策を検討する。

### 質問

これまでの保育料は世帯の支払い能力に応じて金額が決まる制度であったが、新制度では保育料は無償となったが給食費は別途負担となり、その金額は一部の例外を除き実費負担となった。このことについてどう考えるか。

### 答弁

他の社会保障の分野の状況も踏まえつつ、食事はどこにいても食べるため実費負担とする、という国の制度の考え方に準拠し取り扱うこととしている。

### 質問

幼保における給食の食育としての役割についてどう

う認識しているか。またそれに対する支援についてどう考えるか。

### 答弁

給食教育では、食材や調理してくれた方々への感謝、食事のマナーや自ら進んで食べる意欲を培うことなど幼保施設がそれぞれの目標を設定して取り組んでおり、認識を共有している。

支援については、給食センターからの給食提供、国からの公定価格による支援、支援のない施設など状況がバラバラであるため、今後、最適な支援を検討していく。

### 質問

当町はこれまで保育料の独自支援を行っており、給食費を含め保育料の負担は多子世帯でも最大で1・5人分までであり安心して子育てを行えた。

新制度では給食費の実費負担により子どもの数だけ負担が増える仕組みとなった。子育て支援の今後の方向性は。

### 答弁

子育て世代を応援するのは重要であると認識している。子育て世代の負担を軽減するため、給食費への支援という形にこだわらず支援施策が必要だと考えている。

### 質問

総体としては、今回の幼保無償化は子育て負担の軽減になっているが、多子世帯では給食費の実費負担により世帯負担額が年間で約4万円増えているケースもある。

本来支援を最も必要とする多子世帯における負担増が発生している状況に対しどのよ

うに考えるか。

### 答弁

保育料に関しては国の制度にのっとった形で制度運用をしていくが、多子世帯の負担増の状況は認識している。

給食費に限らず、多子世帯をどうやって支援していくかという根本的な部分からもう一度見直していく。



給食を美味しくいただく園児たち



質問を終えて

はじめて委員会で議論した内容を質問したので気合が入りました！



詳細はこちらのQRコードから

## 議員10人による一般質問

### 質問 家族経営・小規模酪農守る施策充実を



中村忠士議員

**質問** 最近JAグループや農業会議所が「家族農業重視」を強調している。規模拡大、大型化偏重の農政を切り替えなければ、地域も農業も壊れるという強い危機感が発言の背景にある。それを踏まえ提案する。

- ①家族経営の支援重視。小規模農家のマインドを温める施策を。
- ②小規模経営から始められる新規就農を可能に。
- ③親元、親族元の経営継承に町独自の支援制度を。
- ④「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に、農業就業者数、農家戸数の目標値を設定する。

#### 回答の要約

規模を限定せず、家族経営を後押しする施策は必要。

⑤牛舎等リフォーム支援制度を。

#### 答弁

- ①規模を限定せず、家族経営を後押しする施策は必要と考える。
- ②町独自の新規就農等対策事業は小規模経営にも適用している。
- ③親元・親族元継承と新規就農者は、経営開始時のリスクが違つので切り離して考える必要がある。
- ④離農は情勢により大きく変化し離農を抑制する抜本的解決策が少ないので、目標値設定は難しい。
- ⑤農業だけでなく他の産業部門を含めた包括的な検討が必要。

要。難しい課題だ。農業施設に限って制度化する考えは現在持っていない。

### 教員の「変形労働時間制」は一層の過密労働を生む

**質問** 学校の先生は一日平均11時間働いているという統計結果が出ている。政府は、平日勤務を1〜2時間延ばせる「変形労働時間制」を導入しようとしているが、現在でも



子どもたちの成長のためにも先生方の余裕が必要

遅い退勤時間ももっと遅くなつて、例えば子育て中の先生は先生を続けられなくなる。

**答弁** 休日の増加、年間の総勤務時間の縮減につながることから、働き方改革を推進するための方策の一つとして有効と考えている。

**質問** 現場をよく知っている教育長の言葉とは思えない発言だ。根室教育局が出した資料では一日12時間働いている先生の話が載っているが、さらに勤務時間が延びる。そんなことになったら現場はもっと困る。現状がわかっているか。

**答弁** 先生方の忙しさは、全員が忙しい時、個々の先生が忙しい時、それぞれ違っている。今まで出された方策で、それぞれの勤務時間が軽減されていく。そのうちのひとつとして「変形労働時間制」も有効ではないかと考えている。

町教委には「変形労働制」についてもっとしっかり調べて答弁してほしい。

質問を終えて



## 議員10人による一般質問

### 質問 ふるさと交流館の課題をしっかりと把握し 早急にあり方を示すべき



今西和雄議員

**質問** 開設以来30年近くにわたり町内外の皆さんに有効活用されてきたが、今後のあり方については。

#### 回答の要約

今後の交流館の存続・廃止について、令和2年9月までに町民の皆様の見解を聞き方向性を示していく。

千人となっている。

現況を踏まえ、町民の皆様の見解を聞き、令和2年9月までに方向性を示したい。

**質問** 町長は、この施設を町にとってどのような位置づけとして考えているのか。

**答弁** 設置理念や町民福祉向上および憩いの場としての目的は、しっかりと引き継いでいかなければならない。施設の必要性や膨らむ費用の課題など、全体をオープンにして町民の意見を聴取していく。

また、利用状況は、ピーク時より5割ほど減少しており、平成30年の実績では、入浴客数が約5万4千人、宿泊客数が約4

### 農協と一層密に議論を重ね よりよい研修牧場の方向性を

**質問** 酪農研修牧場の今後のあり方は。また、求められている機能改善は何か。

**答弁** 開設から20数年経過し、今日まで76組が新規就農し、現在、4組が就農に向け研修に励んでいる。

今日までスタンション方式フリーストール方式の2種類で研修を行っている。

しかし、施設・機器類の老朽化も目立ち始め、加えて酪農環境の大きな変化もあり、一番の根本として、二つの方式の必要性や放牧方式を取り入れることができるかなど、研修牧場の方向性とあわせて研修内容の見直しなど、実態の把握に努めている。

**質問** 関係機関、特に農協との協議の機会を多く設けるべきと思うが。

**答弁** 研修牧場開設当初から農協とは密に連携を取りながら今日に至っている。全体の方向性については、この1、2カ月で骨格を決めていきたい。

**質問** 酪農研修牧場周辺には、町営牧場、農協が運営する育成牧場もあることから、酪農の一大PRゾーンと位置づけ、農協が主体となって力を発揮するよう働きかける考えは。

**答弁** 一大ゾーンとなり得る地域と思っている。町の考え方を示しながら、農協が主体となって取り組んでいただければ、一層密に議論を重ねていく。



一層の充実が望まれる研修牧場



詳細はこちらのQRコードから

## 議員10人による一般質問

### 質問 スクールバス 長時間乗車の改善を



瀧川 榮子議員

#### 回答の要約

60分乗ることがどういうことなのか、縮められるのかをしっかりと検討したい。

が寄せられている。教育委員会として保護者と本音で語れる場の設定が必要では。

**答弁** 各地区の保護者や先生などで組織する運営委員会で協議されており、保護者の声は届いていると考えている。

議会活動を通じ意見を聞いているのであれば、是非情報を共有し協議の参考としたい。

**質問** 子どもが主人公であることを中心に据え、長時間乗車のメリット・デメリットを考え本音で語りあう必要がある。

**答弁** バスの運行に関して、意見収集など、今の形が一番良いとは言い切れない。広く意見を聞く方法として、アンケートも含め検討していく。

**質問** 運転手の確保など問題はありますが、バスの更新や追加に際して、町の財政負担は大きくないと考えるが。

**答弁** バス購入については補助金の活用もできるが、運行委託料や修繕料、車検代など予算確保が必要となる。

**質問** 子どもたちは教育環境の整備が進み、快適な学校生活を送っている。それとともに快適な気持ちと体調で学習に臨むことも大切であり、最大限の配慮が必要と考えるが。

**答弁** 60分を基準としてスクールバスを運行しているが、子どもたちが受ける影響や、それをどう改善して行くべきかなど、教育委員会の専門的な意見を踏まえ、財政的、行政的にどうしていけば良いのかしっかりと取り組んでいく。



出発前のスクールバス

**答弁** 現在スクールバスは22台運行している。個別の乗車時間に関する資料はないが、60分以上乗車している児童生徒はいる。60分以内の乗車時

**質問** 学校の統合で、スクールバスが導入された。子ども保護者や地域に対して、遠方への通学を保障することが重要な要件となる学校統合であったと考える。  
また、スクールバスの運行は当町教育行政の重要な施策であると考ええる。  
子どもに負担を与えない乗車時間の基準をどのように決めているか。

間となることを基本とし、子どもたちが体調を崩さないよう安全運行に努めている。

**質問** 長時間乗車を避けるための具体的な方策は。

**答弁** 入学予定児童、卒業生徒の居住地を勘案し、実際の距離や時間の測定、運行時間の短縮ルートを考案している。町運行の生活バス路線沿線居住児童生徒については生活バス利用も認めている。

**質問** 議会主催の地域めぐり懇談会で、スクールバスの長時間乗車に対する解消の声

バス通学に毎日片道60分乗車する子がいる。毎日だものきついよね。

質問を  
終えて



## 議員10人による一般質問

### 質問

# 合葬墓事業の計画と運用は



外山浩司議員

**質問** 墓地の管理経費について全額町費で管理している霊園と地域墓地との格差解消を検討する考えは。

**答弁** 墓地管理に係る経費も含め調査し、必要な経費について負担することも検討し、適切な墓地管理に努めていく。

**質問** 今後の合葬墓の計画と運用は。

**答弁** 本年度、「べつかい霊園」内の整備予定地の地質調査を行った。令和2年度中に合葬墓の整備を計画している。利用者の範囲や手続方法な

### 回答の要約

令和2年度中に整備し、運用は他の自治体を参考に検討を進めている。

どの運用は、他の自治体を参考に検討を進めている。

### 周遊型観光の振興は

**質問** 別海十景が指定された経緯と看板の近くに駐車場が設置されていない理由は。

**答弁** 第4次総合開発計画の中で一般公募および観光協会の意見を基に検討した。平成元年に指定され観光推進素材の一つとして捉えている。

看板は、平成2年度に設置したが、道路沿いで駐車場の整備が不可能な場所もあり看板の設置のみ行なった。



野付小学校近くに建つ看板

**質問** 別海十景の看板の正確な位置を示したパンフレットを配布できないか。

**答弁** マップコード、QRコードなどの活用が有効である。

パンフレットには、今回の改訂に向けて検討を進めている。

**質問** 旧奥行臼駅遺所を中心とした奥行地区文化財を史跡公園として整備し、別海町観光の新たな玄関口とした「奥行地区文化財保存整備事業」

の推進が必要と考えるが。

**答弁** 文化財史跡公園の整備事業構想を持ち検討しているが、財源的なこともある。第7次総合計画の中で整備を目指し現在調整中である。

### 次年度からの教育委員会指導室の体制は

**質問** 指導室体制による教育政策の評価と課題、今後の人員体制および配置については。

**答弁** 指導主幹および指導参事の2人体制となったことで、児童生徒の学力、体力、生活力の向上、教師力の向上などに効果が出ている。

2人で年間100回以上の学校・幼稚園訪問を行っており、情報共有と連携のために重要な存在である。

今後も現在の人員体制を継続していきたい。

地域の声を伝え、前向きな回答を引き出す難しさを感じています。



詳細はこちらのQRコードから

## 議員10人による一般質問

### 質問

# 次期選挙への出馬の意思は



戸田憲悦議員

### 回答の要約

これまでの課題の解決と懸案施設の方向性を決める責任などを総合的に判断し、2期目に挑戦する決意である。

**質問** 町長は、「子育て支援」「老後の安心」「産業の振興」の三つの公約を掲げ、町政をけん引してきた。

出生数減少、地域包括ケアシステムの展開、産業では担い手や後継者対策など、対応は十分であったか。

これまでの自身の町政を振り返りどのように総括しているか。

**答弁** 小児科医の確保、出産祝い金の支給や医療費の無料化の実施、認定こども園の整備などの「子育て支援」。

内科医の確保、介護サービスの充実や東部地区介護施設



の建設準備などの「老後の安心」。中小企業振興事業、生乳生産量を堅実に伸ばす支援策、漁港環境整備や漁業後継者支援などの「産業の振興」に取り組んできた。

**質問** これまでの町長と議会との政策論議を振り返ると、町長の三つの公約を推進することが人口減少問題の解決につながるかの公式見解で

あった。

人口減少問題を克服するため、第7次総合計画などの策定に当たり、どのようなリーダーシップを発揮されたのか。

**答弁** 第7次総合計画の中では、人口減少対策の具体的な施策が見えにくいかもしれないが、今後、毎年度の事業計画の見直しの中で、各部署に人口減少対策を具現化するように指示していく。

**質問** 次期町長選挙が迫っている。

町長は、就任後、子どもたちのために「実なる木事業」を打ち出し、第7次総合計画の合言葉に「みんなでつなぐ 実りある ふるさと 共創プラン」を掲げた。

今期蒔いてきた種が「実」を結ぶよう、2期目に挑戦する意思があるのか、積極的にスピード感のある政策展開を行う決意があるのか、出馬の意思と決意を伺う。



※イメージ

実なる木事業では果樹を植えた

**答弁** 先人が築き上げたふるさとを次の世代へ引き継ぐことは、私たちの重要な責任。「オール・フォア・ワン、ワン・フォア・オール」の精神で共生、協働の地域をつくっていくことが大事。まだまだ取り組むべき課題がたくさんある。これらの課題に取り組んでいく責任と、ふるさと交流館、酪農研修牧場、酪農工場といった指定管理施設の今後の方向性を決めることは私の責任だと考えている。

これらのことを総合的に判断すると、来年以降も行政のリーダーとして努力していかなければならないの思いから、2期目に向けてしっかりと挑戦する決意である。

議事録で詳しい答弁をぜひご覧ください

質問を終えて

## 令和元年第4回定例会結果報告 町議会史上初の一般質問10人登壇

### 【第4回定例会の概要】

令和元年度補正予算案、各条例改正などを審議する第4回定例会は、12月10日に招集され、会議録署名議員の指名などを行い、小林議会運営委員長から本定例会の議会運営について報告があった後、会期を12月13日までの4日間と決定しました。

### 1日目

令和元年最後の定例会の開催に先立ち、西原議長から挨拶があり、議会活性化の取組みに触れ、熱い政策論議が行われる期待が述べられました。定例会1日目の12月10日は、曾根町長からの行政報告、佐藤副町長から上程された提出案件の概要説明のあと、各担当課長から議案の内容説明があり、質疑が行われました。

### 行政報告

- 除雪業務委託体制について
- ロシア連邦トロール漁船の即時停止等に関する要請活動について
- 防衛事業及び駐屯地の充実に関する要請行動について
- 明治西春別工場に関連する要請行動について
- 中標津空港利用促進期成会に係る要請行動について
- 北方領土返還要求中央アピール行動及び政府要請活動について
- 産業の動向について
- エゾシカの駆除対策について
- 中小企業支援事業及び観光事業の実績について
- パイロットマラソン大会の実績について
- 菊と緑の会の実績について
- 北方領土における共同経済活動に係るパイロットツアーについて

### 議案などの内容説明

- 本町出身のスピードスケート選手の活躍について
- 下水道広報ツール「マンホールカード」の発行について
- 各補正予算5件
- 条例の制定2件
- 第2号会計年度任用職員の新給与に関する条例
- 第1号会計年度任用職員の報酬、期末手当及び費用弁償に関する条例
- 条例の一部改正15件
- 公の施設に係る指定管理者の指定6件
- 協定の締結1件
- 教育委員会委員の同意1件
- 報告案件6件

### 議案に関する主な質疑

- 別海町高齢者生活ハウスの債務負担行為について（中村議員）
- 東部地区介護施設建設に係る再募集に向けた経過及び見直しについて（中村議員）
- 会計年度任用職員制度の制度設計の細部について（瀧川議員）

● 別海町有乗合バス（生活バス）の使用料改正による影響について（中村議員）  
議案に対する質疑および報告案件の報告の後、一般質問に入り、1人の議員が登壇しました。（詳しくは6ページ参照）

### 2日目

2日目の12月11日は、前日に引き続き一般質問に入り、6人の議員が登壇しました。（詳しくは7〜12ページ参照）

### 3日目

3日目の12月12日も、前日に引き続き一般質問に入り、3人の議員が登壇しました。（詳しくは13〜15ページ参照）  
一般質問終了後は、議案審査

### 4日目

最終日の12月13日は、松壽総務文教常任委員長から委員会に付託された条例制定案件2件の審査結果の報告の後、町長提出議案および同意案件計30件の討論・採決が行われました。



# 定例会まとめ

## 別海町有乗合自動車の運行等に関する一部改正の討論

(賛成13人 反対2人)

### 反対 中村忠士議員

町の生活バスは、特に高校生や高齢者にとって必要不可欠な年間延べ3万人が利用する交通手段となっている。

使用料を差し引いた町費の持ち出しが3千万円を超える状況となっている事情も理解できる。しかし、使用料引き上げによる町の収入増加分は70万円程度であるので、別途この費用を捻出して、「消費税は増税されたが、生活バス使用料は値上げしない」という英断を下すべきである。

その後、福祉医療常任委員会(木嶋委員長・小椋副委員長・佐藤議員・松原議員・横田議員)から「国民の命を守るため安易な公立病院の再編・統合の議論に反対する意見書」が提出され、即日全会一致で可決されました。

議員の派遣と委員会の閉会中の継続調査の件については、異議なく決定され、閉会しました。

## 平成30年度決算審査を終えて

特別委員会委員長 木嶋 悦寛

9月定例会において特別委員会が発足し、大内副委員長・戸田委員・松原委員・瀧川委員・田村委員・横田委員とともに審査を行いました。

今回の決算審査において最重要と考えたのは、決算を検証することで、自治体経営の現状を明らかにし、新年度の予算に反映することです。

本来、決算が有する意味を最大限に生かすことが、ひいては町民の利益を最大化させることとなります。

決算での検証を新年度予算に生かす道筋は、まだ確立していませんが、決算審査の開催時期などを工夫し、自治体経営がより良い方向に進めるよう、今後も議会運営委員会を中心に議論をしなければならぬと考えています。

以下の9項目は、4日間の慎重な審査を経て、町に提出した指摘事項と創意工夫事項です。

### (指摘事項)

- 職員の「人材」育成
- 指定管理に係る事務の改善
- 移任定住政策の見直し
- 行政財産使用料について
- 体験観光の推進に向けた人材育成と基盤整備

### (創意工夫事項)

- 企業振興政策の検証等
- 新規就農者などの担い手支援のため具体的施策の策定
- 地域おこし協力隊の自立的な活動体制の確立
- 経済政策推進体制の見直し

これらの事項について総括質疑を行ったところ、全ての項目について前向きな答弁があったところですが、これまでに積み残されてきた部分もあることから、期限を定めて、確実な取り組みを求めています。

次年度に再び指摘がなされることのないよう、事務改善、制度改正などの行政執行を期待するものです。

決算審査の詳細は、議会ホームページを参照ください。

## 北方領土返還と別海町の魅力をアピール

令和元年12月1日 東京都・日比谷公園ほか

「北方領土返還運動の始まりの日」である12月1日、北方領土隣接地域振興対策根室管内市町連絡協議会として、元島民の皆さんらとともに北方領土返還要求中央アピール行動に参加しました。

東京の日比谷から銀座方面にかけて大勢が行進し、一時期は行わなくなっていた「北方領土を返せ」などのコールも復活し領土問題の一日も早い解決を求めました。翌日には、管内首長とともに

に首相官邸を訪れ、安倍首相ほか閣僚に要請活動を行いました。

また、多くの方に返還運動の理解と参加を促すため、新宿駅西口のイベントコーナーで領土問題の啓発のほか、催し物が開かれました。

1市4町の特産品の即売会においては、今年度から配属された地域おこし協力隊員らが汗を流しており、東京・別海ふるさと会の皆さんとともに会場に訪れ、激励し、一緒に当町の魅力をPRしました。

領土返還要求も隣接地域の振興も、管内4町が国政・道政との連携を大切に取り組んでいなければ前進していきません。議会としても、これまで同様、意見書の提出などを通じて、領土返還と隣接地域の振興対策を求めていきます。

(文責 戸田副議長)



新宿駅西口のイベントコーナー

## 議会サポーターに継続して学びを

令和元年12月1日・2日 別海町議会議事堂

今年度2回目となる議員研修会を開催し、一般質問力の向上と広報・広聴力の向上に取り組みました。

開催に先立ち、研修の講師を依頼した熊谷早大政策学部・土山希美枝教授と議会技術研究会共同代表である西科純氏の2人を議会サポーターに委嘱しました。

議員任期満了前の令和5年3月まで、議会の各種施策に対する提言・助言など、ご協力をいただきます。



委嘱状を受けとる西科純共同代表

一般質問研修では、サポーターから適切な助言があり、終了後も反省点と評価点についての確な指摘がありました。広報・広聴研修では、全国的な先進事例が紹介されました。一つの研修成果として、議員活動を読者に身近に感じていただけるよう、議会だよりの令号から一般質問の感想を余白に掲載しています。

今後も議員力の強化に向けて、各種研修の機会を積極的に活用していきます。

(文責 西原議長)



委嘱状を受けとる土山希美枝教授

# 議会のうごき 9月定例会終了後から12月定例会まで

## 1 議長、副議長、各議員の動向について

期 日	内 容	備 考
9月11日	友好都市「枚方体育協会」交歓会（別海町）	議長
9月14日	産業祈願祭・産業祭（別海町）	議長
9月15日	産業祭（別海町）	議長
9月28日～29日	第5旅団創立15周年・帯広駐屯地創設68周年記念行事（帯広市）	議長
9月29日	遊ばっとスポーツ in 別海（別海町）	副議長
10月2日	衛藤内閣府特命担当大臣（沖縄・北方）北方領土視察時関係団体との要望・懇談（根室市）	議長
10月5日	パイロットマラソン開会式・開催に伴う理事者等懇親会（別海町）	議長
10月6日	パイロットマラソン大会（別海町）	議長
10月8日	鹿児島県志布志市議会行政視察受入（別海町）	議長
10月10日	産業建設常任委員会と商工会との意見交換会（別海町）	議長・産業建設常任委員5人
10月10日～11日	町立別海病院今村名誉院長逝去に伴う葬儀参列（札幌市）	議長
10月11日	菊と緑の会 in べつかい歓迎式、枚方市議会議長表敬訪問対応（別海町）	正副議長
10月12日	根室町村議会議長会主催議員研修会（標津町）	議員12人
10月15日	産業建設常任委員会と道東あさひ農協との意見交換会（別海町）	議長・産業建設常任委員5人
10月16日～18日	ロシアトロール要請活動、防衛省表敬訪問（東京都）	議長
10月19日～20日	札幌・別海ふるさと会総会（札幌市）	正副議長
10月24日～25日	全国市議会議長会基地協議会北海道部会定期総会（恵庭市）	議長
10月26日～27日	福祉医療常任委員会町外視察（芽室町）	福祉医療常任委員5人
10月31日	根室地方森林・林業・林産業活性化推進議員連盟協議会研修会（羅臼町）	議員12人
11月1日	福祉講演会（別海町）	議長
11月8日	地域めぐり懇談会<中西別、本別海>（別海町）	議員15人
11月11日	地域めぐり懇談会<上春別>（別海町）	議員15人
11月11日～15日	演習場関係要請、町村議会議長会全国大会、根室町村議会議長会議長視察（東京都、長崎県）	議長
11月14日	山梨県議会・山梨市議会行政視察受入（別海町）	議会運営委員長
11月15日	町立別海病院今村名誉院長お別れ会（別海町）	議会運営委員長
11月16日	町表彰式及び受賞者を囲む昼食会（別海町）	議長
11月18日	根室農業大賞表彰式・祝賀会（中標津町）	副議長
11月18日～19日	全国市議会議長会基地協議会理事会（東京都）	議長
11月25日	高校生との意見交換会（別海町）	全議員16人
11月30日～12月3日	北方領土返還要求中央アピール行動「アピール行進」・「政府要請」（東京都）	副議長
12月1日	一般質問及び広報・広聴研修会（別海町）	議員12人
12月4日	文化・スポーツ功労者表彰式、優良勤労者表彰式（別海町）	議長

※備考欄には、公務として出席している議員を記載しており、公務外で地域行事などに参加している議員については記載していません。

## 2 一部事務組合・広域連合議会について

期 日	内 容	備 考
12月6日	根室北部消防事務組合議会定例会（中標津町） 中標津町外2町葬斎組合議会定例会（中標津町） 根室北部廃棄物処理広域連合議会定例会（中標津町）	正副議長・関係議員

## 3 本会議および委員会など各種会議の開催結果について

期 日	内 容	期 日	内 容
9月27日	第5回全員協議会協議会 第7回福祉医療常任委員会協議会	11月20日	第11回産業建設常任委員会・第9回同協議会
		11月25日	第12回総務文教常任委員会・第10回同協議会
10月4日	第10回総務文教常任委員会・第8回同協議会	12月2日	第21回議会運営委員会 第16回広報・広聴常任委員会
10月7日	第14回広報・広聴常任委員会		第22回議会運営委員会
10月9日	第10回福祉医療常任委員会・第8回同協議会	12月5日	第5回全員協議会 第7回全員協議会協議会 第17回広報・広聴常任委員会
10月10日	第8回産業建設常任委員会協議会		第4回定例会
10月11日	第10回産業建設常任委員会		第23回議会運営委員会
10月16日	第15回広報・広聴常任委員会	12月10日～13日	第13回総務文教常任委員会・第11回同協議会 第13回福祉医療常任委員会・第10回同協議会 第12回産業建設常任委員会・第10回同協議会
10月26・27日	第11回福祉医療常任委員会（町外視察）		
11月5日	第11回総務文教常任委員会・第9回同協議会	12月12日	第8回全員協議会協議会
11月6日	第20回議会運営委員会		
11月11日	第6回全員協議会協議会	12月13日	第8回全員協議会協議会
11月19日	第12回福祉医療常任委員会・第9回同協議会		

※会議の開催結果は、ホームページで確認することができます。

シリーズ  
町民に  
聞きました

## 別海高校寄宿舎の生活



別海高校の生徒12人が暮らす寄宿舎を、2回目の冬を迎える12月に取材のため伺いました。

ちょうど少し早めのクリスマス会が開かれたその日、寄宿舎の食堂に入ると、若者の爽やかな挨拶が私たちを迎えてくれました。残念ながらインフルエンザで2人が自宅に戻っていましたが、それ以外の生徒全員がそろった食卓は、美味しそうな馳走であふれかえっていました。子どもたちに話を聞くと、お料理上手な寮母さんが作ってくれる食事は毎食美味しく、寄宿舎生活の大きな楽しみとなっているようです。特に学校に届けられる心のこもった暖かいお弁当にとっても感謝していました。

食事の準備のお手伝い、食器や食べ終わったお弁当箱の片づけ、共用スペースの掃除など、自分たちでできることは積極的に動く姿がとても印象的でした。

子どもたちが口をそろえて話したことがあります。冬期間の通学の大変さについてです。高校と寄宿舎は約3<sup>キ</sup>離れていて途中で大きな坂がふたつあります。夏は自転車ですら15分程度で通学できますが、足場の悪くなる冬は極寒の中、1時間近くもかけて通学することになります。部活の後は真っ暗になった道を車道の車に怖さを感じながら歩くそうです。

そのため別海市街地の移動ではありませんがバスを利用して通学することも多いようです。送り迎えの親の負担を考えると寄宿舎に入ったのに、バスの費用で負担を掛けるのが申し訳ないと話していました。

来年は妹が入る予定だと嬉しそうに話す生徒もいて、寄宿舎が保護者にも利用する生徒にも温かく受け入れられているなと感じました。

(取材&撮影 瀧川、小椋委員)

### 編集後記



小椋 哲也 委員長  
本号から委員全員の編集後記を掲載する形式にしました。今回は顔写真ですが次号から似顔絵にしたいな、と考えています。どのようになるかお楽しみに！寒い季節ですが風邪にお気をつけください。



瀧川 榮子 副委員長  
今寒さも本番です。春ふきのとうを見つけた日お待ち遠しいです。



戸田 憲悦 委員  
編集作業も体調管理が肝要です。皆さまも風邪をひかぬように。



外山 浩司 委員  
スケートリンクが賑わっています。雪が少しでも別海の冬ですね。



田村 秀男 委員  
短い文章でわかりやすく表現することの難しさを痛感しています。



横田 保江 委員  
若い活力を大切に育めなければ計り知れない社会の損失となる。



宮越 正人 委員  
まだまだ、たくさん町民の皆様の声をお聞きしたいと思います。

飲んだら乗るな、乗らせるな、みんなの力で飲酒運転撲滅を!!